

## 2 子育ての支援と預かり保育

### 資料編

(1) 「幼稚園教育要領」における関連する内容等  幼稚園教育要領より抜粋

#### 第1章 総則

##### 第3 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など

幼稚園は、地域の実態や保護者の要請により教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者を対象に行う教育活動について、学校教育法第22条及び第23条並びにこの章の第1に示す幼稚園教育の基本を踏まえ実施すること。

また、幼稚園の目的の達成に資するため、幼児の生活全体が豊かなものとなるよう家庭や地域における幼児期の教育の支援に努めること。

#### 第3章 指導計画及び教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

##### 第2 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動などの留意事項

1 地域の実態や保護者の要請により、教育課程に係る教育時間の終了後等に希望する者を対象に行う教育活動については、幼児の心身の負担に配慮すること。また、以下の点にも留意すること。

(1) 教育課程に基づく活動を考慮し、幼児期にふさわしい無理のないものとなるようにすること。その際、教育課程に基づく活動を担当する教師と緊密な連携を図るようにすること。

(2) 家庭や地域での幼児の生活も考慮し、教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動の計画を作成するようにすること。その際、地域の様々な資源を活用しつつ、多様な体験ができるようにすること。

(3) 家庭との緊密な連携を図るようにすること。その際、情報交換の機会を設けたりするなど、保護者が、幼稚園と共に幼児を育てるという意識が高まるようにすること。

(4) 地域の実態や保護者の事情とともに幼児の生活のリズムを踏まえつつ、例えば実施日数や時間などについて、弾力的な運用に配慮すること。

(5) 適切な指導体制を整備した上で、幼稚園の教師の責任と指導の下に行うようにすること。

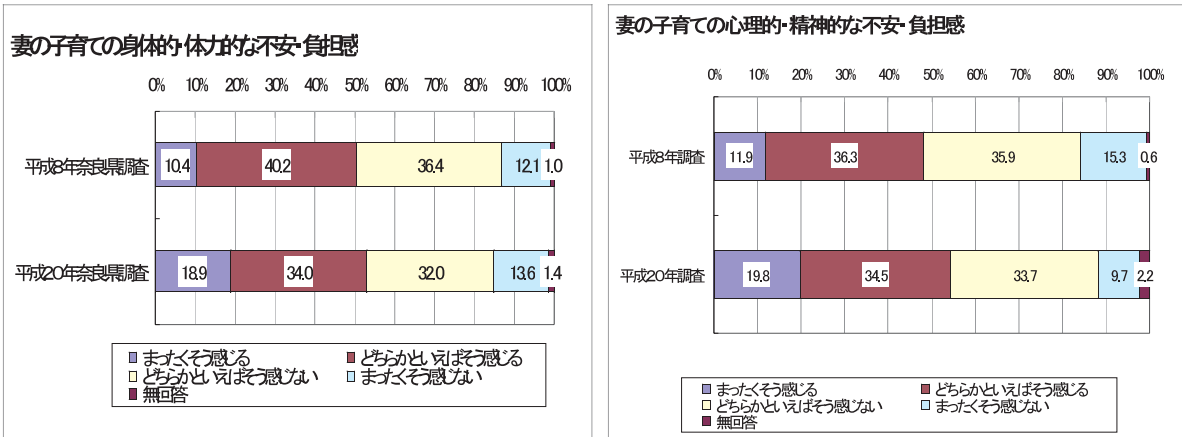
2 幼稚園の運営に当たっては、子育ての支援のために保護者や地域の人々に機能や施設を開放して、園内体制の整備や関係機関との連携及び協力に配慮しつつ、幼児期の教育に関する相談に応じたり、情報を提供したり、幼児と保護者との登園を受け入れたり、保護者同士の交流の機会を提供したりするなど、地域における幼児期の教育のセンターとしての役割を果たすよう努めること。

幼児の家庭や地域での生活を含め、生活全体を豊かにし、健やかな成長を確保していくためには、幼稚園が家庭や地域社会との連携を深め、地域の実態や保護者及び地域の人々の要請などを踏まえ、地域における幼児期の教育のセンターとしてその施設や機能を開放し、積極的に子育てを支援していく必要がある。

(2) 奈良県における子育て家庭の状況と課題

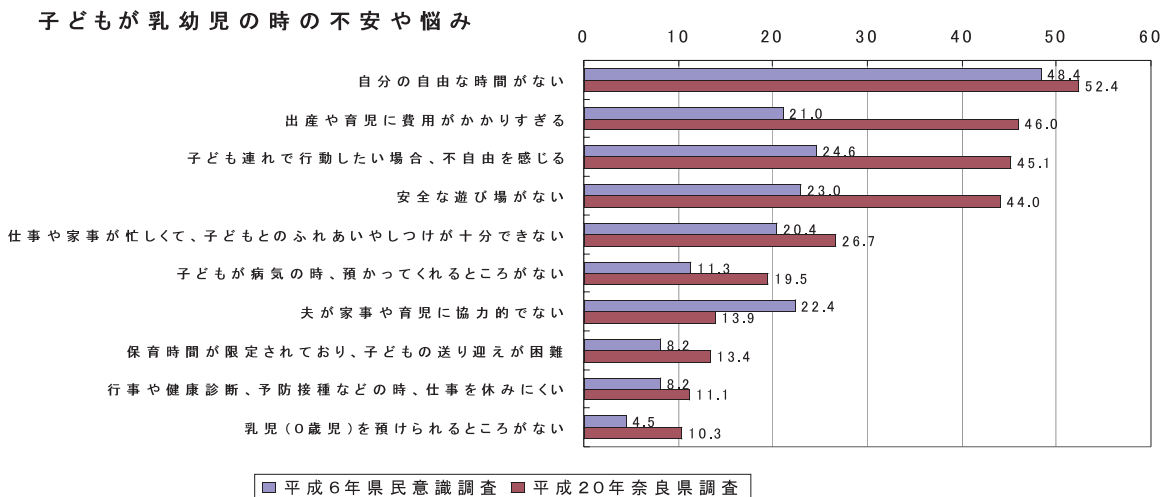
表やグラフから分かること

身体的・体力的な不安・負担を強く感じている妻（対象：6歳未満の子どもがいる母親）は、平成8年10.4%から平成20年18.9%に増加している。また、心理的・精神的な不安・負担を強く感じている妻は、平成8年11.9%から平成20年19.8%に増加している。



奈良県少子化実態調査（平成20年）

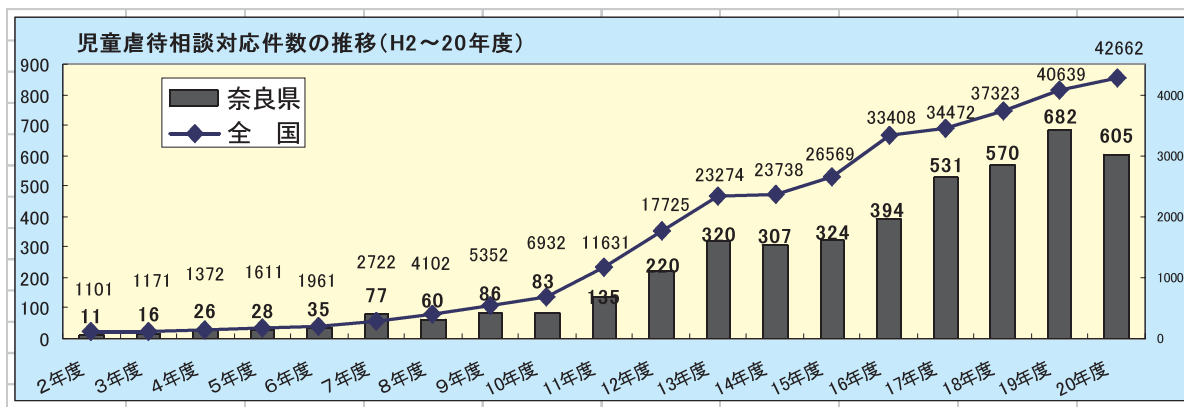
乳幼児の子どもをもつ妻の具体的な不安や悩みで、最も多いのは、「自分の時間がない」（52.4%）である。「安全な遊び場がない」（44.0%）、「仕事や家事が忙しくて、子どもとのふれあいやしつけが十分できない」（26.7%）などの、子育てに関する悩みを持っている。



奈良県少子化実態調査（平成20年）

子育て支援  
預かり保育

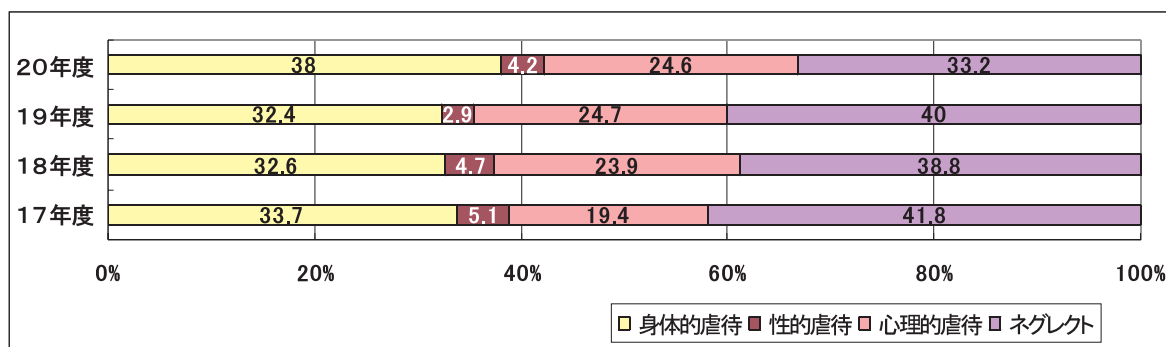
平成9年度から、児童虐待相談対応件数は全国、奈良県ともに増加している。



[棒グラフは県に寄せられた相談件数]

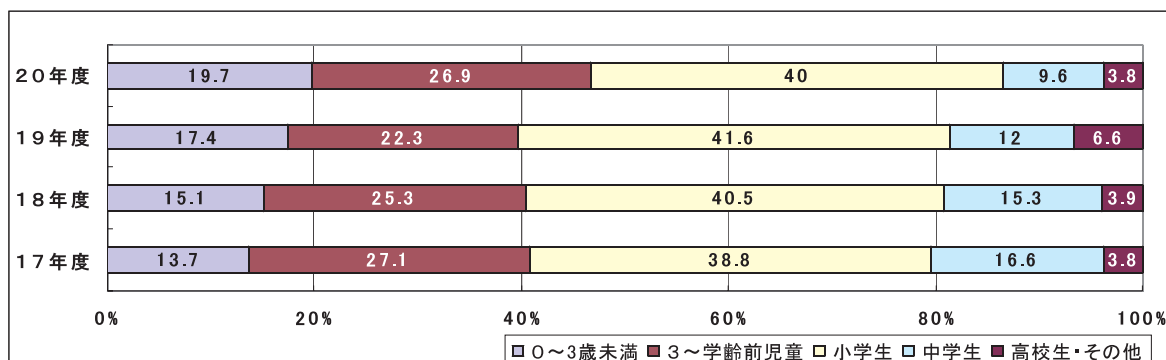
奈良県児童虐待相談統計

虐待の種類別の件数をみると、平成19年度までは保護の怠慢・拒否（ネグレクト）が多かったが、平成20年度には身体的虐待の割合が一番多く38%を占めている。



奈良県児童虐待相談統計

被虐待児の年齢をみると、就学前の乳幼児の占める割合が、平成17年度の40.8%に対して平成20年度は46.6%と増加している。



奈良県児童虐待相談統計

子育てに対する不安やストレスをもつ保護者が増えているという課題がみられる。子育てに対する安心感を保護者にあたえ、子育てをする意欲を引き出すことが大切である。

事例5 未就園児保育

子育ての支援活動の具体例としては、子育て相談の実施や子育てに関する情報の提供、親子登園などの未就園児保育、子育て井戸端会議などの保護者同士の交流の機会などが幼稚園教育要領において例示されている。ここでは、平成19、20年度に開催した「子育てサポーターリーダー養成講座」における幼稚園実習の取組を参考に、未就園児保育の事例をあげる。(未就園児保育は、地域の方などの支援を受けて実施する場合もある。そのため、ここでは「担当者」とする。)

(1) 未就園児保育の実施までの計画

担当者が、その日の活動内容・ねらいなどを共通理解し把握する。

活動予定表を作成するなど、活動のねらいや参加者の活動内容、担当する仕事、準備物などについて担当者が確認し共通理解する。

【活動予定表例】

- ・活動日 平成〇〇年〇月〇日 (〇)
- ・今日の目標 親子で触れ合って楽しく遊ぶ。
- ・参加予定人数 子ども〇名 保護者〇名
- ・担当者 〇〇 〇〇 〇〇

時刻	参加者の活動内容	担当者の動き (準備物・担当等)
9:00		・遊戯室に各コーナーを準備する。 ・一人一人を温かく迎える。 ・参加した子どもに名札を付ける。 〈担当：〇〇〉
9:30	・受付をする。 名札をつけてもらう。 カードにシールを貼る。	
10:00	・好きなコーナーで遊ぶ。 { ブロック、ままごと ボール、小麦粉粘土 段ボールトンネル }	
<p>○活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容は、高度すぎず多すぎず、臨機応変に対応できる内容にする。</li> <li>・子どもと親と一緒に楽しめ、家庭でも簡単にできる活動を紹介する。</li> <li>・動的な活動と静的な活動を組み合わせた流れにする。</li> </ul>		

子育て支援  
預かり保育

## (2) 未就園児保育の実施当日

### ○場をつくる。

- ・ 安心感のある雰囲気をつくる。
- ・ 親子の主体性を生かす。
- ・ 子どもと子ども、子どもと親の関係をつくる。
- ・ 情報が得られる場をつくる。



### ○関係をつくる。

- ・ だれにでも親しみやすい雰囲気  
で接する。
- ・ 親子同士のつながりを促す。

### ○受けとめる。

- ・ ちょっとした相談も受けとめる。
- ・ 困っている親子を受けとめる。
- ・ 様々な価値観を受けとめる。



未就園児保育を通して、幼児と保護者、保護者同士の交流の機会となるよう担当者が親子の姿を受けとめ、子育てへの意欲を引き出す場とする。

(3) 未就園児保育終了後の振り返り

担当者が活動の振り返りをし、次の活動に向け共通理解を図る。

未就園児保育の実施記録などを工夫することで、活動を振り返るとともに次の活動への共通理解が図れるようにする。

情報を共有する。

【かかわりの記録記入例】

とりあげた日時	平成〇〇年〇月〇日	とりあげた場面	小麦粉粘土の遊び
とりあげた理由	前回より親子の様子に変化が見られた。		
子ども・保護者の様子や言動	私が感じたこと	私の言動	
<p>○親子で一緒に小麦粉粘土をちぎっている。</p> <p>○お母さんが「見てみ、おばちゃんが上手に作ってくれたよ。〇〇ちゃんも作ろうや。」と言って、親子で目玉焼きを作る。</p> <p>○お母さんは「おいしそうやっ。」と〇〇ちゃんに嬉しそうに言う。また、サポーターに向かって「ここでやったら上手やなって、ほめてやれるのに、家では叱ってばかりで。」</p>	<p>○何を作ったらよいか戸惑っているように思った。</p> <p>○私の言動にお母さんがすぐに反応してくれて、『これがやりたかった』という雰囲気、親子で本当に楽しんでいるように感じた。</p> <p>○お母さんの思っていることを言葉にしてくれたので、いろいろな話をすることができたように思った。</p>	<p>○「ほら、こんなのできたよ。」と目玉焼きを作ってみせる。</p> <p>○「〇〇ちゃん、目玉焼き、おいしそうやな。」</p>	
<p>〈考察〉○今までは、なかなか話しかけに反応してもらえなかった。今回、お母さんが気持ちを少し出してくれたことで、じっくりお付き合いすることの大切さを感じた。</p>			

次の活動での対応を考える。

子どもや保護者の様子や言動、その場面について感じたり考えたりしたこと、かかわった言動などを記録にとり、考察を行い、次の活動の参考とすることもできる。

【保育記録の項目例】

平成〇〇年〇月〇日 (〇)		9時00分～11時30分	
幼稚園名	〇〇幼稚園	氏名	〇〇 〇〇
<p>〈未就園児保育を通して感じたこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良かった点</li> <li>・反省点</li> <li>・次回に向けて</li> <li>・感想</li> </ul>			

担当者のかかわりを見直す。

未就園児保育を通して感じたことを保育記録に記述するなど、担当者自身のかかわりを見直し、次の活動時のかかわりに生かしていく。また、保育記録などをもとに、担当者同士が情報を共有することもできる。